

1年 道徳通信

〇〇〇立〇〇〇中学校
1年 〇組担任 〇〇〇〇

◎「今日の道徳授業」の紹介

教材名 25「落語が教えてくれること」

ねらい： 人にはいろいろな見方や考え方があることを理解し、それぞれの個性や立場を尊重しようとする心情を育てます。

■教材の内容について

宿の主人である、お人よしの金兵衛は、その年、39 人も一文無しを泊めていました。彼は、泊める前にお金の無さそうな客を見抜くこともできなければ、一文無しと分かったところで宿からたたき出すこともできない性格なのです。そんな中、40 人目の一文無しの左甚五郎との出会いをきっかけに、彼は認められ、励まされ、自分のよさに気づいていきます。

相手の気持ちを想像する力をつけ、いろいろなもの見方や考え方から学び、自分自身を高め、他者とともに生きるという自制を伴った気持ちで、判断し行動することの大切さを理解できる教材です。

■生徒の実態について

中学生の時期は、生活のさまざまな場面において、それぞれの個性を生かすことができず、よさを認め合い、高めることが苦手な生徒が多く見られます。その中で、自分に劣等感を感じたり、自信を失ったりする生徒も少なくないです。そこで、いろいろなもの見方や考え方があることを理解し、相手のことを素直に受け入れ、自らを高めていくことに喜びを見いだすようにしたいです。

■ご家庭へ

人間が互いに理解し合うために、自分の考えや意見を相手に伝えることは大切なことです。寛容さとは、自分と相手の考え方の違いを理解しつつ、自分の考えや意見を伝えると同時に相手の考えや意見を尊重することです。それは決して他人の過ちを見て見ぬふりをすることではありません。中学生の時期には、自分の意見が明確になる一方で、自己主張ができず周りに流されたり、自己主張が強すぎて攻撃的になったりすることもあります。ご家庭においては、寛容であることの難しさや大切さについて実体験や身近な事例をもとに話し合い、寛容の心を持ち謙虚に学ぶことが人間としての成長につながることに理解を深めていただきたいと思います。

.....キリトリセン.....

◇ご意見やご感想、家庭でお子さんと話題にしたことなどぜひお寄せください。()